群馬県立しろがね特別支援学校　学校評価一覧表（令和5年度版）

（様式）

羅針盤 評価対象	評価項目	具体的数値項目	グランドデザイン項目／主な分掌	方策	点検・評価 自己評価	点検・評価 外部アンケート等	達成度 総合	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
Ⅰ　幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1　保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	①保護者の80％以上が、たよりや学校のホームページから学校の様子がよくわかると感じている。	地域／教務部	○Webページの掲載内容に係る分掌担当者が2週間毎にWebページを確認し、タイムリーでわかりやすい記事の更新に努める。	A	A	A	今年度は、各学部の授業の様子のみならず、主な行事等の様子を掲載したり、Web上のデータを整理したりする等、閲覧者の視点に立ったWebページを作成した。	－	Webページ上に掲載する内容を各部主事や係と連携し、計画的に情報発信する。おたより等のデジタル化をさらに推進する。
		②PTA活動を年3回実施し、参加率が70％以上である。	地域／渉外部	○本部役員と連携して行事を運営する。また、PTA活動についてWebページで積極的に発信する。特に、しろがね祭については事前準備や当日企画等、項目を複数設定し、参加しやすくする。	A	A	A	今年度は、PTA総会を書面議決による開催とし、昨年度よりも多くの方にPTA活動について発信できた。しろがね祭の前日準備や当日担当の割り振りの通知を出し、たくさんの方にご協力いただいた。	・コロナも5類に移行し、保護者同士が関わる機会も増えていくことと思う。行事等、保護者も快く協力してくれる。楽しく情報交換できる機会が増えていくとよい。	本部役員と相談しながら、保護者が参加しやすいPTA活動の内容や周知の仕方を工夫し、参加率を向上させる。
	2　保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	③保護者の80％以上が「個別の教育支援計画」の内容について、関係機関と共有できる内容となっていると感じている。	笑顔／渉外部	○保護者面談や連絡会議において、学校と家庭や関係機関がともに生徒の長所を伸ばすことを中心に話し合いを進め、支援内容について合意形成を図る。	A	A	A	・最初の学園生保護者面談の前に、学園職員と支援の基本方針について共通理解を図った。 ・保護者や学園職員から聞き取りをしながら、個別の教育支援計画を作成した。	・この項目は保護者アンケートの評価が87.2%と他の項目と比して少し低かった。卒業後に対外的に出される計画だが、適した内容となっているか等、再確認してみる必要があるかと思う。	・学園生の保護者への連絡方法が統一されていなかった。学園と再確認した連絡方法について年度始に本校職員への周知を図り、円滑に業務を進められるようにする。
		④交流及び共同学習実施の意義や交流形態について、保護者や関係機関の80％以上が賛同している。	友情／渉外部	○交流相手と話し合い、間接交流も含め、安全な交流形態を選択する。交流の意義について再確認し、継続して交流できるようにする。	A	A	A	・直接交流を3回、間接交流を4回実施した。 ・4年ぶりの直接交流となった学部もあったが、当日は充実した交流を図ることができた。	・伊勢崎三中との交流では、お互いに楽しい活動となった。お互いを尊重しあえる社会を作っていくためにも、引き続きこのような機会を大切にしてほしい。	・交流及び共同学習についての意義（本校・相手校）を再確認する必要がある。
Ⅱ　地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3　障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	⑤地域の幼保小中学校等から年間200件の要請を受けて助言・援助に当たり、担任の取組に改善が見られた割合が80％以上である。	地域／渉外部	○先生方の頑張りを認めるとともに、大まかな方向性を話し合いで確認する。その上で自信を持って指導改善できるよう助言する。	A	－	A	・相談を依頼してきた担任や学校のニーズをよく聞き取り、丁寧に対象児童生徒の実態を伝え、支援内容を提案してきた。	－	・担任の話を詳しく聞いた上で、困っていることを整理し、前向きに保育や教育に向かえるような支援を心がける。
		⑥地域の学校等で、60分ケース会議を含む研修会を実施し、指導の参考になった教職員が80％以上いる。	地域／渉外部	○教職員研修で、わかりやすい授業作りを提案し、特別支援教育の視点を取り入れてもらう。 60分ケース会議の意義と効果について丁寧に説明する。	A	－	A	・各学校の相談や講演会の研修内容として、「特別支援教育の視点を取り入れた指導」について提案してきた。60分ケース会議についても紹介した。	－	・事前の打ち合わせを綿密に行い、ニーズを詳しく把握してから研修会を実施する。 ・60分ケース会議の普及に努める。
Ⅲ　幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4　個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑦個々の児童生徒のニーズに応じた教材教具（ICT機器の活用も含む）を工夫した指導・支援ができると回答する教員が80％以上である。	笑顔／学習指導部	○教材教具を工夫した実践事例などの情報（ICT機器等の活用含む）を収集し、研修を行い、授業改善につなげる。	A	A	A	・教材データの集約に着手した。また、昨年度のICTを活用した実践事例の研修に引き続き、今年度も全校職員を対象としたICT研修を2回行った。	・先生方の手厚く温かい指導はとてもよい。児童生徒の能力（特殊な能力を含む）を引き出し、伸ばしていけるような実践を積み重ねてほしい。	・集約した教材データを、誰もが取り出しやすいように、発達段階等に応じて分類や整理を行っていく。
		⑧80％以上の保護者が「個別の指導計画」について、保護者の願いや児童生徒の実態に合った目標・内容となっていると感じている。	笑顔／学習指導部	○「個別の指導計画」についてわかりやすい表記と説明のもと、連絡会議や保護者面談で意見をいただき、必要に応じて加筆・修正する。	A	A	A	・昨年度に引き続き、連絡会議や保護者面談を活用して、保護者の意向を聞いたり、学校での取組や課題を説明したりして、合意形成を図りながら目標や内容の設定を行った。	・愛着障害への対応について考えたり、社会の厳しさも教えていかなければならず、簡単にはいかないと思うが、卒後を見据えた指導を続けてほしい。	・今後も、保護者面談や連絡会議を活用することで、保護者の願いや児童生徒の実態に即した個別の指導計画の作成を進める。
	5　指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑨80％以上の教員が個別の指導計画を作成するために校内研修が参考になったと感じている。	笑顔／学習指導部	○アセスメント、3観点別の評価等について教職員間で検討をしながら研修を進めていく。 ○新転任者に対して、アセスメントの実施方法や個別の指導計画についての研修を行う。	A	－	A	・個別の指導計画の書き方、太田ステージの実施方法についての研修に加えて、今年度は学習指導推進係への質問シートを作成した。	－	・質問シートは効果的であったので継続する。また、令和7年度から本格実施となる個別の指導計画の統一様式に基づいた記入方法等についての研修を実施する。
		⑩「個別の指導計画」に掲げた目標の達成率が80％以上である。	笑顔／学習指導部	○アセスメントの結果を踏まえた目標設定やその手立て、評価となっていることを、担任間、学年、学部で計画的に検討し、定期的に目標を見直す。	A	A	A	・昨年度に引き続き、個別の指導計画検討会を各学部、各学年単位で実施し、児童生徒の実態を把握した上で、実現可能な目標設定となるよう複数人で見直す機会を各学期に設けた。	・児童生徒が生き生きと授業や行事等に取り組んでいる姿がとても印象的であった。生徒が生き生きと学校生活を送れるような支援を続けてほしい。	・今後も、実態把握から実現可能な目標の設定と手立て、その評価をスムーズにできるような研修を実施していく。
		⑪アセスメントに基づいて個別の指導計画の目標を設定したり、目標達成のために授業の単元や題材を設定したりして、よりよい授業づくりに努めていると回答する教員が80％以上である。	笑顔／学習指導部	○定期的に協議しながらアセスメントを行い、実施に向けて計画的に教職員へ周知する。 ○新転任者に対して、アセスメントの実施方法や個別の指導計画についての研修を行う。	A	－	A	・今年度は、全校統一されたアセスメントの方法を、年度始に周知し、新転任者研修の中でも「太田ステージ」の実態把握法を取り上げた。	－	・アセスメント結果と学習指導要領の既習事項記録を照らし合わせて、どのように目標や手立てを組み立てていくのかについて、研修等を通じて職員への共通理解を図っていく。
Ⅳ　健康や安全の確保に努めていますか。	6　健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑫児童生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、関係者の80％以上が情報共有できていると感じている。	元気／保健部	○連絡会議や家庭訪問、行事等の保護者と話ができる機会を活用して、健康に関する情報を共有し、配慮や対応について共通理解を図る。	A	A	A	・保護者面談や学校行事、登下校時や連絡帳、健康観察表など様々な場面や手段で、配慮や対応について日頃から保護者等との情報共有、共通理解等を図ることができた。	－	・今年度同様に、健康上の配慮や緊急対応について、保護者等との連絡を密にし、職員への情報共有や共通理解を図るとともに、情報共有や校内体制の確認を継続していきたい。
		⑬安全点検を全教職員で毎月実施し、危険箇所改善率を95％にする。	元気／安全環境部	○点検・危険箇所の報告が速やかに行えるように、安全点検の形式を電子化し、危険箇所に関する情報や修理・改善等の対応について全教職員で迅速に共有、共通理解を図る。	A	A	A	・毎月安全点検を全教職員に呼び掛け、重要性を周知した。危険箇所は随時報告、改善され、落下防止ネットも設置完了した。児童生徒が安全に学習に取り組める環境が昨年度より改善された。	・吹き抜けのところなどに落下防止ネットが設置され、安全になってよかった。	・生活環境をより改善していくために、網戸の設置等を進めていきたい。
		⑭業務の削減・廃止や改善、ICTの活用等により、80％以上の教職員が、多忙化解消に向けた取組に前進が見られると感じている。	多忙化解消／教務部・事務部	○教育活動やその他業務でのICT活用、会議等の短縮・削減、事務手続きの簡略化等により、業務改善に向けた取り組みを進めていく。	A	－	A	・業務改善推進委員会が中心となったことで、各分掌等の自発的な業務改善の取組が進み、手続きの簡素化や会議の書面開催、書類のペーパーレス化等が次々と実現した。	・教職員の業務への負担感は他の学校でも学校種でも、大きく改善するまでにはなかなか至らないと思うが、引き続き進めてみてほしい。	・引き続き、業務改善推進委員会を中心に課題の洗い出しや各分掌や職員が取り組んだ業務改善の紹介などを行い、更に自発性や主体性を大切にした取組を進めていく。
	7　危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑮心肺蘇生法の講習会を年1回、救急対応訓練等を学部（高等部は学年）毎に実施し、80％以上の教職員が対応について理解している。	元気／保健部	○想定できる場面について講習会や訓練を行い理解を深めるとともに、緊急時の対応について共通理解を図る。	A	A	A	・心肺蘇生法の講習会を実施した。緊急対応訓練を学部・学年毎に実施し、より実践的に訓練することができた。実際に緊急対応が必要な際に迅速に行動することができた。	－	・ヒヤリハット事例を職員間で共有し、確認することで危機管理の意識を高め、全員の職員が実際の場面で適切に対応できるよう、今後も継続的に研修を実施していく。
		⑯いじめの未然防止に向けた取組について、80％以上の教職員、保護者が満足している。	友情／生徒指導部	○いじめ認知について教職員の共通理解を深める。あいさつ運動、教育相談週間、なかよしアンケートを実施し、気になる事案はいじめ防止対策委員会に諮る。	A	A	A	・昨年度の課題であった、生徒自身がいじめ防止について考える活動について、今年度は、いじめ防止フォーラムに生徒が参加し、いじめ防止についてさらに理解を深めることができた。	－	・いじめを認知する上で、加害、被害の両者の立場から情報共有できるよう加害側の児童生徒の担任にも聞き取りシートを回覧するようにしたい。
		⑰危機管理マニュアルに基づいて緊急対応訓練を年間3回以上実施している。	元気／安全環境部	○警察・消防等の専門機関と連携し教職員の危機管理意識向上を図る。また、危機管理マニュアルの内容を適宜検討、更新し、最新の内容のものを共有、活用する。	A	A	A	・緊急対応訓練を行い、緊急時の職員や児童生徒の動きを確認した。その際の課題を担当職員間で話し合い、危機管理マニュアルの内容を再度検討、改善を行い、各教室へ設置した。	－	・不審者対応訓練について、不審者への対応や生徒の避難誘導などを実際に体験できる教員の数を増やせるようにしていきたい。
Ⅴ　将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8　キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑱キャリア教育に係る授業を80％以上の教員が、年間3回以上行っている。	笑顔／学習指導部	○キャリア教育全体計画を教職員に配付する。キャリア教育の視点に立った授業を実施し、他学部へ発信し共有する機会を設定する。	A	A	A	・今年度は、来年度初めから小中高一貫したキャリアパスポートを使用してキャリア教育できるように、書式や全体計画の見直しを行った。	・指導すべき内容は多々あると思うが、「社会での生活」に軸を置き、内容を絞り込んでいくことも大切である。	・キャリア教育の概要や性質等について、また見直された全体計画について年度始の職員への周知を徹底する。
	9　保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑲学校からの進路に関する情報について、保護者の80％以上が満足している。	地域／進路指導部	○進路だよりの内容を充実させ、Webページ等を活用し、速やかに情報を提供していく。また、進路先や関係機関との情報交換を計画的に進め、新しい施設等の情報を保護者に提供していく。	A	A	A	・進路だよりの内容をより充実させ、校内の活動だけでなく、群馬県からの情報を掲載する他、新規事業所の情報を積極的に掲載し、速やかな情報提供を行った。	－	・進路だよりやWebページを活用し、進路関係の情報や行事等の情報提供を更に充実させていく。
		⑳関係支援機関や実習先、保護者との情報交換を年間3回以上実施し、その結果として保護者の80％が、関係機関等との連携が深まったと感じている。（高等部）	地域／進路指導部	○ケース会議、個別面談、実習先との面談等に担任に対して進路指導主事から助言、または必要があれば同席する。	A	A	A	・担任と保護者面談前に進路選択の相談を実施することや進路コーナーの活用を通して、担任に対し、情報提供を行った。また、進路指導主事が保護者会や面談に同席し、進路選択に関する情報提供を行った。	・進路決定に限らず、卒業後、本人を見守ってくれる人ができるだけ増えるように、引き続き外部とのつながりを大切にしていただきたい。理解者を増やしていくことも必要である。	・進路選択をより良くできるように担任への情報提供を行い、進路指導主事等が、保護者面談にも積極的に参加していくなどの工夫をする。
		㉑関係機関や教職員間で連携しながら実施している就業体験（校内・校外）が、就業への意欲を高めることにつながっていると、保護者の80％以上が感じている。（中学部・高等部）	地域／進路指導部	○実施計画について教職員間での共通理解を徹底し、関係機関とも綿密な打合せを行う。成果を授業内や保護者面談、Webページ等で積極的に発信する。	A	A	A	・進路だよりやWebページを活用し、校内就業体験での活動の様子や校外就業体験の実施報告、希望調査から就業体験実施までの流れ等、保護者のニーズに合わせた情報を提供した。	・社会に出てからは、作業が現実のものとなり、温かいばかりの支援ではなくなる。学校にいる間は、個に合わせて、温かく褒めながら力を伸ばしていけるようにすることが大切である。	・関係機関の情報を整理し、より的確な進路指導ができるように準備する。Web等を活用し、保護者への情報提供を継続的に行う。